



2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月8日

上場会社名 株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 上場取引所 東
 コード番号 4576 URL <http://www.dwti.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日高 有一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務管理部長 (氏名) 川上 哲也 (TEL) 052-218-8785
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年12月期第2四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	363	205.5	127	—	121	—	135	—
2018年12月期第2四半期	118	50.3	△382	—	△388	—	△365	—

（注）包括利益 2019年12月期第2四半期 121百万円（－％） 2018年12月期第2四半期 △387百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	5.15	—
2018年12月期第2四半期	△13.91	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第2四半期	2,039	1,421	68.4
2018年12月期	2,073	1,300	60.8

（参考）自己資本 2019年12月期第2四半期 1,395百万円 2018年12月期 1,259百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	500	70.7	30	—	20	—	60	—	2.28

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期2Q	26,275,200株	2018年12月期	26,275,200株
② 期末自己株式数	2019年12月期2Q	－株	2018年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期2Q	26,275,200株	2018年12月期2Q	26,263,227株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料について）

・決算補足説明資料は、T D n e t で同日開示を予定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、輸出や生産に一部弱さはみられるものの、景気は緩やかな回復傾向となりました。一方で、通商問題による世界経済の下振れリスクもあり、先行きは不透明な状況が続いております。

国内医薬品業界におきましては、医薬品使用量は増加傾向にあるものの、薬価引下げや後発医薬品への切り替えの加速等が進み、国内の事業環境は厳しさを増しております。各社はパイプライン拡充や他社との協業等、競争力強化に向けた取り組みを進めております。

このような状況の下、当社グループは新薬の継続的な創出とパイプラインの拡充を目指し、研究開発活動を推進いたしました。

自社創製品につきましては、「グラナテック®点眼液0.4%（一般名：リパスジル塩酸塩水和物、開発コード：K-115、ライセンスアウト先：興和株式会社（以下、「興和」））（以下、「グラナテック」）」が緑内障・高眼圧症を適応症として国内上市されており、販売状況は順調に推移しております。海外については、2月に韓国における輸入薬許可（日本における製造販売承認に相当）を取得されました。また、「H-1129（WP-1303）（ライセンスアウト先：わかもと製薬株式会社（以下、「わかもと製薬」））」の緑内障・高眼圧症を適応症とした国内第Ⅲ相臨床試験が1月に開始されております。当社においては、「H-1337」及び「H-1129（日本の領域を除く）」のライセンスアウト活動を進めました。

導入品につきましては、「DW-1002」の欧州等で上市済みの製品（製品名：ILM-Blue®、MembraneBlue-Dual®、適応症：内境界膜剥離、ライセンスアウト先：Dutch Ophthalmic Research Center International B.V.（以下、「DORC」））の販売状況は順調に推移しております。また、同剤の日本（適応症：白内障手術）については、2月にわかもと製薬にライセンスアウトいたしました。なお、同剤の米国（製品名：TissueBlue™、適応症：内境界膜剥離）については、4月にDORCによって申請が行われました。

研究開発プロジェクトにつきましては、シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにおいて、眼科関連疾患を中心に新薬候補化合物の探索のための研究開発活動を行い、また、他社との共同研究を推進いたしました。

売上高につきましては、「グラナテック」、「DW-1002」のロイヤリティ収入、「H-1129（WP-1303）」の国内第Ⅲ相臨床試験開始に伴うマイルストーン収入及び「DW-1002（白内障手術）」のライセンスアウトによる契約一時金の受領等により、合計363百万円（前期比205.5%増）を計上し、売上原価に6百万円を計上しました。

販売費及び一般管理費につきましては、229百万円（前年同期比53.7%減）となりました。その内訳は、研究開発費が「H-1337」の米国臨床試験終了により前年同期と比較して減少し、121百万円（前年同期比65.4%減）、その他販売費及び一般管理費がコスト削減施策の効果等により、108百万円（前年同期比25.6%減）となりました。

これらにより、営業利益は127百万円（前年同期営業損失382百万円）となりました。また、営業外費用に支払利息3百万円及び為替相場の変動による為替差損2百万円を計上したこと等の結果、経常利益は121百万円（前年同期経常損失388百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は135百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失365百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における新薬候補化合物開発状況は以下の通りです。

(イ) 自社創製品

開発コード等	対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先／開発コード
グラナテック	緑内障・高眼圧症	上市	日本	興和／K-115
		承認	韓国	
H-1129	緑内障・高眼圧症	第Ⅲ相臨床試験	日本	わかもと製薬／WP-1303
H-1337	緑内障・高眼圧症	第Ⅰ相/前期第Ⅱ相臨床試験	米国	自社開発
K-134（注1）	—	—	日本	興和／K-134

（注1）ライセンスアウト先の興和により、閉塞性動脈硬化症以外の適応症への応用を検討されているため、対象疾患と開発段階は記載しておりません。

(ロ) 導入品

開発コード等	対象疾患	開発段階	地域	ライセンスアウト先/ 開発コード	起源
DW-1002	内境界膜剥離	上市	欧州	DORC	国立大学法人 九州大学
	内境界膜剥離	申請	米国	DORC	
	内境界膜染色	第Ⅲ相臨床試験	日本	わかもと製薬 /WP-1108	
	白内障手術	第Ⅲ相臨床試験	日本	わかもと製薬 /WP-1108	
眼科用鎮痛剤	眼の手術後疼痛	臨床試験準備中	日本	自社開発	英国企業
未熟児網膜症治療薬	未熟児網膜症	臨床試験準備中	日本	JIT開発	国立大学法人 東京農工大学

(ハ) 研究開発プロジェクト

開発コード等	対象とする疾患等	開発段階
シグナル伝達阻害剤開発プロジェクト	眼科関連疾患、神経、循環器、呼吸器系疾患	基礎研究

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末から34百万円減少し、2,039百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末から12百万円減少し、1,752百万円となりました。主な要因は、流動資産のその他が25百万円減少した一方で、売掛金が17百万円増加したこと等によるものです。固定資産は、前連結会計年度末から22百万円減少し、287百万円となりました。主な要因は、契約関連無形資産が20百万円減少したこと等によるものです。

負債は、前連結会計年度末から155百万円減少し、618百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末から94百万円減少し、174百万円となりました。主な要因は、DW-1002(白内障手術)のライセンスアウトにより、株式会社ヘリオス(以下、「ヘリオス」)へマイルストーンを支払ったこと等の結果、未払金が113百万円減少したこと等によるものです。固定負債は、前連結会計年度末から61百万円減少し、444百万円となりました。主な要因は、長期借入金が60百万円減少したこと等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末から121百万円増加し、1,421百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が135百万円増加したこと等によるものです。

この結果、自己資本比率は68.4%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ3百万円減少し、1,580百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は158百万円(前年同期は255百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益121百万円及び減価償却費22百万円があったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は100百万円(前年同期は0百万円の支出)となりました。これはDW-1002(白内障手術)のライセンスアウトにより、事業譲受による支出(ヘリオスへマイルストーンの支払い)100百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は60百万円(前年同期はありません)となりました。これは長期借入金の返済による支出60百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2019年3月28日に公表いたしました「当社株式の業績基準に係る猶予期間入りに関するお知らせ」のとおりに上場廃止に係る猶予期間入り銘柄となりましたが、2019年12月期の通期連結業績予想につきましては、2019年2月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。2019年度の業績予想は黒字化を予想しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,584,282	1,580,953
売掛金	70,706	88,089
貯蔵品	59,475	58,638
その他	49,992	24,491
流動資産合計	1,764,457	1,752,173
固定資産		
有形固定資産	4,825	3,822
無形固定資産		
契約関連無形資産	287,999	267,428
その他	3,944	3,499
無形固定資産合計	291,944	270,927
投資その他の資産	12,527	12,527
固定資産合計	309,296	287,277
資産合計	2,073,753	2,039,451
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	120,000	120,000
未払金	130,375	16,995
未払法人税等	2,736	1,967
その他	15,190	35,245
流動負債合計	268,302	174,208
固定負債		
長期借入金	480,000	420,000
その他	25,350	24,000
固定負債合計	505,350	444,000
負債合計	773,652	618,208
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,762	34,762
資本剰余金	2,133,478	2,133,478
利益剰余金	△908,379	△773,056
株主資本合計	1,259,861	1,395,185
非支配株主持分	40,239	26,057
純資産合計	1,300,101	1,421,242
負債純資産合計	2,073,753	2,039,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	118,894	363,214
売上原価	6,632	6,998
売上総利益	112,262	356,216
販売費及び一般管理費		
研究開発費	350,031	121,115
その他	145,135	108,012
販売費及び一般管理費合計	495,167	229,127
営業利益又は営業損失(△)	△382,904	127,088
営業外収益		
受取利息	52	76
補助金収入	367	367
その他	150	40
営業外収益合計	569	484
営業外費用		
支払利息	3,153	3,071
為替差損	2,455	2,562
その他	267	0
営業外費用合計	5,876	5,633
経常利益又は経常損失(△)	△388,211	121,939
特別利益		
新株予約権戻入益	1,657	—
特別利益合計	1,657	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△386,553	121,939
法人税、住民税及び事業税	783	797
法人税等合計	783	797
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△387,337	121,141
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△22,113	△14,181
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△365,223	135,323

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△387,337	121,141
四半期包括利益	△387,337	121,141
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△365,223	135,323
非支配株主に係る四半期包括利益	△22,113	△14,181

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△386,553	121,939
減価償却費	24,552	22,018
株式報酬費用	1,587	3,175
受取利息	△52	△76
支払利息	3,153	3,071
為替差損益(△は益)	267	1,708
新株予約権戻入益	△1,657	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,767	△17,382
未払金の増減額(△は減少)	33,201	△13,380
その他	76,660	41,772
小計	△250,607	162,845
利息の受取額	52	77
利息の支払額	△3,171	△2,980
法人税等の支払額	△1,438	△1,562
営業活動によるキャッシュ・フロー	△255,164	158,379
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△795	—
無形固定資産の取得による支出	△500	—
事業譲受による支出	—	△100,000
差入保証金の増減額(△は増加)	900	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△395	△100,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	—	△60,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	△60,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	△1,708
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△255,581	△3,328
現金及び現金同等物の期首残高	2,132,677	1,584,282
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,877,095	1,580,953

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。